

第 1 回小牧市放課後子ども総合プラン導入検討委員会 報告

1. 日時

令和元年 7 月 24 日（水）午前 10 時から

2. 議題

(1) 主旨説明

- ① 外国籍の児童が増えてきており、学力の問題や、生活言語は理解していても学習言語は理解していないという問題がある。小牧市の放課後子ども総合プランの検討において、何らかの方向性が示されるのか。
- ② 外国籍の児童も参加しやすく、かつ日本国籍の児童にとっても世界を見るチャンスとなるよう、互いに助け合って取り組めるとよい。
- ③ 放課後子ども教室は、児童も保護者も日本語を理解できない場合は、募集期間と翻訳期間の兼ね合いもあり、申込まで至らないことが多い。
- ④ 児童クラブと放課後子ども教室を一体的に実施する場合、学習支援を行うということも 1 つの案ではないか。

(2) 小牧市放課後子ども総合プランについて

- ① 児童クラブでひらがなが書けない児童がいるが、学力の低下以前の部分で学校は手一杯になっていると思う。児童クラブでも生活習慣の指導や、宿題に取り組ませても中々進まないという問題がある。学校、児童クラブ、放課後子ども教室のどれにも関係するようなことをこのプランで行ってもよいのではないか。
- ② 同じ小牧市内でも、名鉄沿線は児童がとても多いが、離れると少なくなり、地域差が大きくなっている。人が集まるところとそうでないところでは、同じ事業を行おうとしても向き・不向きが当然生じることを考慮しなくてはならない。
- ③ 小牧市は児童館がとて充実して、大きな資源となっているが、どのように連携していくのかは大きな問題だと思う。
- ④ それぞれの制度で縦割りのになり、お互いに何をしているかという情報交換が十分でないことがある。このプランの検討を契機として、児童向けの資源の活用、互いの連携を考えていくことで、もっと児童のためになるようなものを工夫できるのではないか。
- ⑤ 学校だけでなく、色々なところで役割を分担して全体でこどもを見るという体制づくりが大切だと思う。プランに含める部分とそうでない部分は、適材適所となるよう検討していくべきである。

- ⑥ 放課後子ども教室で読み聞かせを行う日に児童クラブの児童も誘って一緒に読み聞かせを行うということが徐々に定着して好評だったと聞いたことがある。最初から大きなことをするのは大変なので、今までやってよかったことを少しずつ広げるという方法もあると思う。
- ⑦ 例えば学習支援を行う場合でも、ある程度1人で取り組める熱心な子が集まり、本当に支援が必要な子は中々来ないという事例もあった。
- ⑧ 例えば、6年生は6時間授業となっており、教員も大変だが児童も大変だと思う。それが終わって、児童クラブでも学校の続きをするような形になると、それはそれで問題となるかもしれない。
- ⑨ 児童クラブの目的、意義を第1に考えて、国が示している「子どもの主体性を尊重し、自主性・社会性等のより一層の向上を図る」ことが本当に実現されるように進めていく必要がある。
- ⑩ 発達障害の児童が増えており、学校でもケース会議等を開催しながら対応しているが、プランでも何らかの対応策が検討されるとよい。

(3) 児童クラブ保護者負担金の見直しについて

- ① 見直しについては、市としてどのように考えるかという視点が重要だと思う。当事者が負担すべきという考え方もあるし、こどもへの投資という考え方もある。
- ② 児童クラブは満員で、児童同士のケンカが始まり、注意する支援員の声は大きくなり、温かく見守ることは難しくなっている。定員を設けて欲しいと思う。

多子減免を行うと、「ついでだから」という発想でどんどん児童が増えることが心配である。導入に合わせて何かの改善策を検討して欲しい。
- ③ 児童クラブ費はひとり親で所得が低いと減免になるが、今まで減免を受けていた児童に父親ができて減免から外れ、ぎりぎりの生活で支払いきれないため児童クラブを辞めると申し出があったことがある。一律の値上げではなく、低所得の方も利用できるような条件も検討して欲しい。
- ④ 開設当時からずっと据え置きとなっているが、物価も上がっている中で疑問があった。夏休みも同料金なのでどうかと思うが、低所得の方のことを考えると、単純に1.5倍にすることにも確かに疑問がある。